

中山道後期第8回区間記録

2014年4月8日～9日(1泊2日)

JR各務ヶ原駅→養老鉄道 東赤坂駅(鵜沼宿→加納宿→合渡宿→赤坂宿)

世話人：蜂巢 毅(昭39工) 鈴木明夫(昭41農)(記)

1-1:(催行日誌) 4月8日(火) 快晴 歩行距離14.3km 参加44人

1-2:行動記録

各務ヶ原駅9:28→挨拶/体操10:50→11:20「ぶるうすかい」(昼食)12:30→13:50 浄慶寺14:20 → 岐阜駅→16:00 岐阜ダイワロイネットホテル(泊)→18:00 岐阜キャッスルインにて東海銀杏会との懇親会を兼ねた夕食会。

1-3:区間概要・エピソード

- 小倉さんから東海銀杏会の大坪彬良さんが紹介された。2日間一緒に歩行されることになった。工藤ご夫妻は夕刻ホテルで合流との連絡を受けており、いつもの体操をした後、44名で出発。
- 最初の立ち寄った所は「ニトリ・ヤマダ電機」で、歩きだし早々の休憩ではあるが、昼食を摂る市庁舎までトイレがないので取りあえずということである。
- 102番目の「六軒一里塚」を通り過ぎて、各務原市街地へと入っていくとやがて右手に立派な各務原市役所が現れた。
- 市役所の先の産業文化センターの8階にある展望レストラン「ぶるうすかい」でバイキングの昼食。展望というだけあって市街地が一望できた。
- 午後のスタートは市民公園内の通過でした。岐阜大学の跡地を整備したもので、丁度桜が満開でよい花見が出来た。岐阜県出身の本会会員の松尾さんの友人が公園で待ち受けておられ、三脚付きのカメラを持参し、松尾さんその他の方の写真を撮って下さいました。
- 市街地を抜けて、住宅地に入ると「新加納立場」の案内板があった。鵜沼宿と加納宿の間は20kmの距離があったので中間の休憩所として立場が設けられ、これが発展して「間の宿」となったとのこと。
- 新加納を過ぎて坂を下ると広々とした田園地帯が広がっており、右手には名鉄各務原線の電車が走っている。東海北陸自動車道のガード下をくぐると再び住宅地となる。次の目的地は松尾さんのご親戚の「浄慶寺」である。
- 当日は4月8日「花祭り」。門前で仏様に甘茶をかけ、甘茶をおいしく頂戴して境内に入った。本堂では住職の十四代住職の田中道弘さんからお寺の由来や歴史についてのお話を拝聴した。幼少時代このお寺ですごされた松尾さんからも、食糧難の時に助けられたことや、受験勉強の環境としてはこのお寺はとても良かったなどの思い出話をお聞きした。
- 浄慶寺を出た後は、殆ど市街地で、大手門跡、明治天皇御小休所跡、本陣跡等の碑はあったが、後ろの建物等は碑とは無関係で見るべきものは殆どなく、岐阜駅を經由して本日の宿泊ホテルの「岐阜ダイワロイネットホテル」に到着した。
- 一汗流したあとで、宿泊ホテルから1分の距離の「岐阜キャッスルイン」で東海銀杏会との懇親会を兼ねた夕食会を行った。
- 東海銀杏会からは12名の参加を頂き、長谷川会長の挨拶後、工藤さんの音頭で乾杯、開会した。東海銀杏会の原野素雄代表幹事のご挨拶、清水事務局長の東海銀杏会の活動紹介、残りの参加者全員の紹介があり、この間各テーブルでは交流が深められた。東海銀杏会からの参加者の中には平成卒業の会員も含めて、若い会員が多かったのが羨ましい。

2-1 : (催行日誌) 4月9日(水) 快晴 歩行距離 18.9km 参加 46人

2-2 : 行動記録

ホテル出発 7:30→8:40 乙津寺→9:25 合渡橋→11:00 美江神宮→ 11:30 昼食 (豊田屋) 12:30→
鷺田橋(揖斐川)→小簾紅園 13:30→喫茶工房優花→東赤坂 15:32

2-3 : 区間概要・エピソード

- ホテルの玄関前は舗道となっているので、朝の体操は省略して出発。
- 昨日の午後の浄慶寺を出た後と同様、岐阜市内は碑はあれど立ち入って観るべきものは殆どなく、乙津寺(おっしんじ)に至る。
- 乙津寺は行基の草創、空海の再興とされている。また空海が挿した杖から芽が出て梅の花が咲いたと言う故事から梅寺と呼ばれており、季節になると花見参拝者が多数訪れるという。
- 乙津寺を出たあとは道なりに歩くと長良川に出る。ここに掛けられた橋は「河渡橋」と呼ばれ、延長 374.7mである。悠々と流れる川面を眺めながら渡った。
- 河渡宿は中山道を表示する看板の置物が多く、安心して歩けるようになっている。中山道をどう扱うか宿(市町村)によって随分違うものだと感じた。
- 次に休憩を取れるのは美江寺宿に入ってからになるので、途中「生津交差点」で右折し 150m先の **Valor** というドラッグストアまで寄り道をして休憩を取った。
- 中山道に戻り、再び美江寺宿を目指した。途中で参拝、見物する場所もなく、話のタネとしては、一級河川の五六川であろうか。数mの橋が架かっており水量も少なく、とても国が管理しているとは思えない。
- サボテン村と表示した看板と広々としたビニールハウス群があったが、荒れ果て手入れがされておらず雑草の中に沢山のサボテンが放置されていた。
- 樽見鉄道の線路を越えると美江寺宿で、まずは美江神社に立ち寄った。十一面観音像を安置した観世音堂と境内に復元された美江寺宿高札場等を見て、昼食を摂る店へと移動した。
- 昼食を摂ったのは「うなぎ 豊田屋」である。鰻を主なメニューとする店ではあるが経済的理由によって「松花堂弁当」を注文した。
- 豊田屋を出発して、千手観音像、千躰寺、神明神社などを横目で見ながら通過した。
- 次に目指すは揖斐川に架かる鷺田橋で、巢南中学校脇の水田を斜めに横切って橋への登り口に到達した。橋の延長は 412.5m。写真係の金子さんは、橋の上から手を振る一行の写真を撮るべく、先行して橋を渡り、河川敷で待つという大活躍であった。
- 次の休憩所は和宮様ゆかりの「小簾(おず)紅園」。昔この辺りを呂久川(揖斐川)が流れており、ここから和宮様が船でお渡りになった場所である。その後呂久川は東に 300m移動されて現在の揖斐川となっている。
- 本園には船中で和宮様が詠まれた お歌「落ちて行く 身と知りながら もみじばの 人なつかしく こがれこそすれ」が歌碑に残されている。
- 小簾紅園から本日の最終目的地である養老鉄道の東赤坂駅に向けて出発。
- 養老鉄道は、この時間帯には一時間に 1、2本しかないので、駅前にある喫茶工房「優花」でドリンク&スイーツを注文して電車の到着までの時間を過ごした。
- なお、この休憩時間を利用して連隊旗(先頭、殿 の持つ淡青色の旗)の引継ぎを行い、区間幹事の交代をした。

以上